

小城市 ため池ハザードマップ

【保存版】

北浦ため池



ため池全景



ため池下流域

平成30年3月作成



ため池ハザードマップに関するお問い合わせは

小城市役所 農村整備課 TEL: 0952-37-6127

ため池
決壊想定
イメージ

1 大規模地震により堤防が破損、大雨で増水

・・・亀裂や堤防前面の滑落など

2 大雨等でため池の水位低下が困難

・・・亀裂や堤防前面の滑落箇所からの漏水など

決壊地点直下の地域の建物や車は押し流される可能性があります。

高台に避難してください！

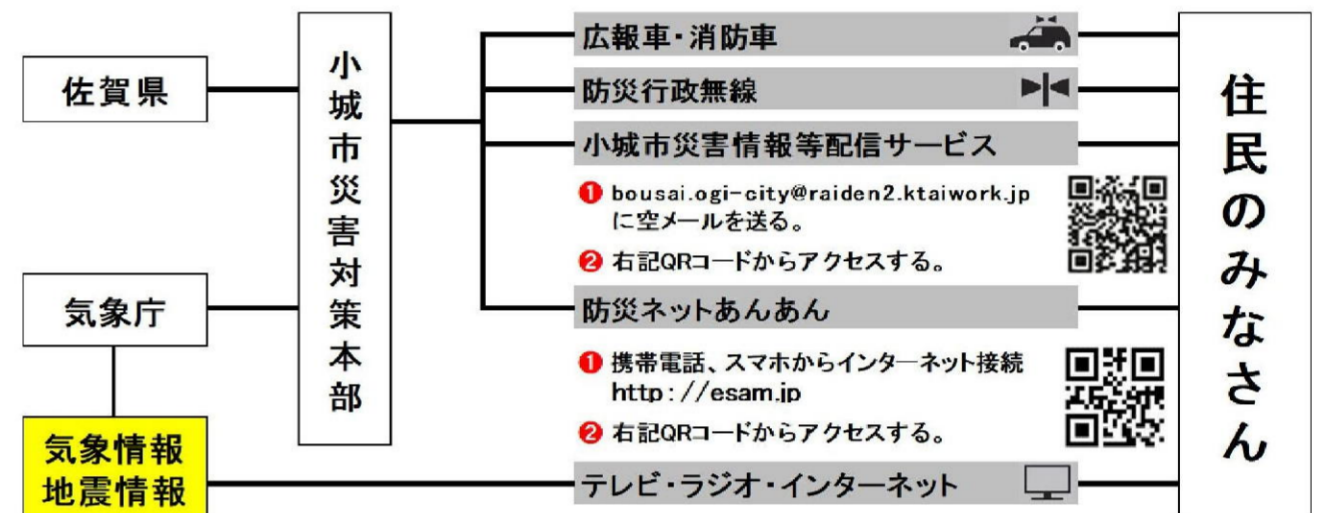
※今回のため池ハザードマップ作成については、今後発生が予想される大規模地震などにより、ため池が決壊した場合を想定しています。

市からの避難情報に注意しよう

●避難情報には、緊急度に応じて3つの種類があります。

避難情報の種類	発表の目安
避難準備情報・高齢者等避難開始	人的被害の発生する可能性がある場合に発表します。特に避難行動に時間を要する方は、避難を開始してください。
避難勧告	人的被害の発生する可能性が明らかに高くなった場合に発表します。避難してください。
避難指示(緊急)	人的被害の発生する可能性が非常に高く、大変危険な場合に発表します。ただちに避難してください。

●避難情報は、下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。



※「防災ネットあんあん」とは佐賀県では、県民の皆さんの安全・安心を確保する一助として、携帯電話等のメール機能を使った情報配信システム「防災ネットあんあん」を運用しています。是非ご登録ください。

避難勧告等がだされたら速やかに避難しよう



～早期避難のススメ～

避難は、可能な限り浸水被害が発生する前に行ってください。ため池の決壊後の避難は危険ですので、注意してください。

- 動きやすい服装で。
- 荷物は最小限。
- 足元に注意。

- 避難は徒歩で。
- 指示に従いましょう。

災害発生時の避難情報入手における注意点

地震のあと、被災状況(防災行政無線の故障、広報車の通行不可、停電等)により、通常的手段を通じた情報の入手が困難になります。そのことを前提と考え、憶測やデマに惑わされず、冷静に事態に対応しましょう。また、大雨時は家屋内にいる場合が多く、防災行政無線・広報車の呼びかけが雨の音で聞こえにくい場合があります。テレビやラジオ、インターネットなどから、自主的な情報収集を心がけましょう。

地域防災力の向上に向けて

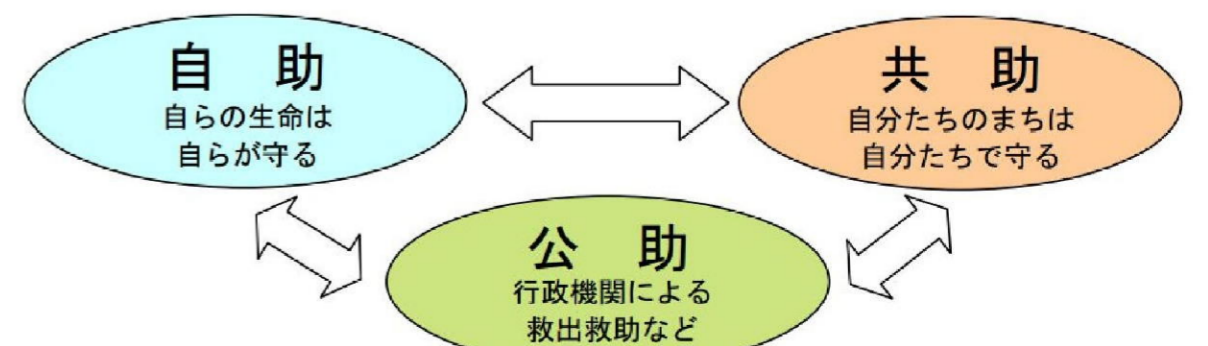
災害(大雨、洪水、地震)は必ず発生します。もしかすると、明日発生するかもしれません。将来予想される大規模な災害に対応するためには、自助・共助・公助の取り組みとともに、地域の防災力を向上させていくことが重要です。

「災害を知る」「まちを知る」「人を知る」

1. **災害を知る**
「どれくらいの規模で、どのような災害の発生が予想されるか」
2. **まちを知る**
「災害時に安全な場所、危険な場所はどこにあるのか」
「何かあった場合にお世話になる場所や施設はどこにあるのか」
3. **人を知る**
「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか」
「近所に手助けが必要な人はいないか」

「自助」「共助」「公助」

- 災害の被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」連携が不可欠です。
1. **自助**
「自らの安全は、自らが守る」これが、防災の基本です。
 2. **共助**
近所の人たちと協力して、お互いに助け合うこと。
 3. **公助**
市役所・警察・消防といった行政機関が取り組むこと。



それぞれが、災害対応力を高め、連携することが重要

地域防災力を高めることが、災害に強い地域を作る事に
つながり、一人でも多くの命を救うことにつながります。

【保存版】

ハザードマップ

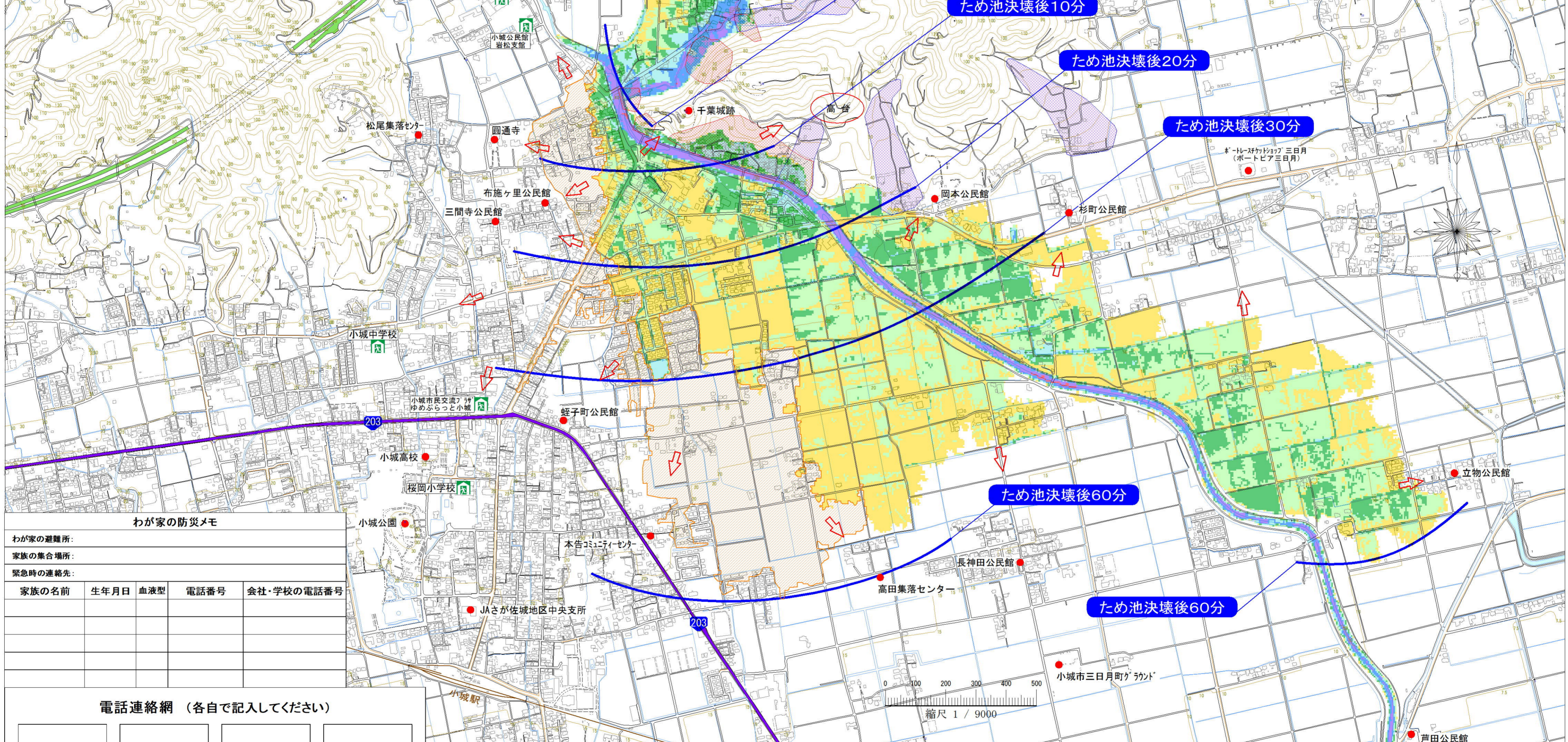
北浦ため池

このマップは、大規模地震などにより、ため池が決壊した場合にどのような被害となるかを知るために、ため池すべての貯水量が流出する状況を想定しています。このマップは、浸水の深さを色で示しています。表示されている範囲外でも、被害が発生する可能性がありますので、注意が必要です。

浸水深の目安

凡例

- 小城市指定避難所
- 避難場所
- 避難場所(高台)
- 避難方向(※4参照)
- 決壊後到達予想時間
- 祇園川土砂埋没時浸水範囲
- 土石流危険渓流
- 急傾斜崩壊危険箇所



わが家の防災メモ

わが家の避難所:
 家族の集合場所:
 緊急時の連絡先:

家族の名前	生年月日	血液型	電話番号	会社・学校の電話番号

電話連絡網 (各自で記入してください)

- ### ※避難時の注意事項 箇条 (家族で避難時についての決め事などを事前に話しておきましょう)
- 震度5強以上(目安)の地震時、または避難勧告等がなされたら速やかに避難する。
 - 可能ならば、家に留まらずに高台を目指して避難する。
 - まわりの浸水状況に十分注意しながら落ち着いて避難する。
 - 避難経路については、事前に確認する。
 -
 -